



週報 第3007回

会長 藤野 修次 副会長 藤原 重行
幹事 寺田 敏也 SAA 泉谷 仁博

例会場 ホテルレイクアルスターアルザ泉大津
TEL 0725-20-1121
例会日時 毎週金曜日 12:30~13:30



事務局 〒595-0062 泉大津市田中町10-7 泉大津商工会議所3F TEL.0725-21-9500 FAX.0725-21-9501

メールアドレス izumiotsu-rc@ioctv.zaq.ne.jp

ホームページ http://izumiotsu-rc.org



今週の例会 (2018年11月9日)

■ プログラム

卓話担当 上田 秀朗 会員

■ 次週のプログラム

11月16日: 卓話担当 植村 勢彦 会員

■ 今後の予定

11月23日: 例会休会

11月30日: 卓話担当 白谷 旗世彦 会員

■ 祝 誕生日

古林 寿真子 (12日)

■ 今月のロータリーソング

我等の生業

今月の歌

もみじ

秋の夕日に 照る山もみじ
こいもうすいも 数ある中に
松をいろいろ 楓や葛は
山のふもとの 裾模様

■ 先週の例会

会長の時間

藤野 修次 会長

今年の年度も3分の1が消化しましたが、理事・役員さんをはじめ会員の皆様の御協力のお蔭でここまで無事に終えることができました。あと、3分の2の期間が残っていますが、気を緩めずに皆さんの御協力の元頑張っていきたいと思っておりますので宜しくお願い致します。



今日は、先月のロータリーの友の中に目についた記事を紹介させていただきます。「会津と薩摩、因縁を超えロータリーが結んだ縁」という題材です。会津と薩摩は、1868年(慶応4年/明治元年)から翌1869年(明治2年)にかけて起きた戊辰戦争は、明治新政府を樹立した薩摩藩・長州藩・土佐藩らを中核とした新政府軍と、旧徳川幕府勢力及び奥羽越列藩同盟とが戦った国内戦です。名称は干支が「戊申」であることに由来します。戦では多くの血が流され、また戦後処理に関して、敗軍側には大きな痛みが生じました。

特に会津の地には、薩摩藩の猛攻を受け城下町がそのまま戦場となり、ほぼ1か月後には鶴ヶ城も開城となりました。このような過酷な市街戦を経験した経緯もあり、時を越え、戊辰戦争の記憶が市民の中に残っているそうです。こんな状況の中、1996年、今から22年前に鹿児島中央ロータリークラブから会津若松西ロータリークラブへ友好交流の打診がありました。それを受け、会員の一部からは強硬な反対意見がありました。会員の理解を得るのには、火を見るよりも明らかでした。当時の会員の76人のうち、20人ほどは戊辰戦争で薩摩藩と戦火を交えた会津藩の子孫だったのです。当時の鹿児島中央ロータリークラブ会長は、薩摩藩主を務めた島津家第3代当主・島津修

IZUMIOTSU ROTARY CLUB

第3007回

久(のぶひさ)氏で、会津若松西ロータリークラブの会長は著者の田中文雄氏です。田中氏はメンバーに「和解しようというのではない。次の時代を担う人たちの為にも交流に向け、長年閉ざされていた門を開きたい。会津であろうと鹿児島であろうと、同じ日本人ではないか」因縁をこれ以上、引きずるべきではないとみんなに訴えました。以降、反対の声は出なくなったそうです。こうして、1997年1月に会津若松西ロータリークラブの田中文雄会長が17人のメンバーと共に鹿児島を訪問し、そこで、田中文雄会長の挨拶の中に「当方のクラブでは、『戊申の仇敵・鹿児島クラブと友好クラブになるとはいかかなものか』という異論もありました。しかしながら、『過去の怨讐を乗り越えてロータリーの友情の絆を結ぼう』と、会長として説得に努めてきました。その結果、『鹿児島中央ロータリークラブの島津会長が島津家第3代当主であれば、戊申後の交流に不足はない』と賛意も多くなり、鹿児島側の申し入れを受けることに決定しました」と表明された。こうして、1997年1月、ちょうど鹿児島中央ロータリークラブが創立20周年を迎えた記念式典で会津若松西との友好クラブ盟約式を実施。田中・島津両会長がにこやかに握手を交わすと、会場は万雷の拍手に包まれた。以後、両クラブ間では周年行事の相互訪問、会津若松・鹿児島市内での記念植樹を行ったほか、毎回研究テーマを決めたテレビ合同例会も実施し現在も友好が続いているそうです。

幹事報告 寺田 敏也 幹事

- 各テーブルにガバナー月信を置いております地区大会の様子が掲載されております
- メールボックスにロータリーの友を入れておりますので、ご一読お願い致します
- 例会終了後、理事役員会を開催します

委員会報告 なし

■ ビジター なし

■ 出席報告 会員数42名 出席免除0名

月日	出席数	欠席	補充	出席率
11/2	35名	7名	—	83.33%
10/12	32名	10名	3名	83.33%

■ メークアップ

榎本(10/25 Rotary E-Club Sunrise of Japan)
松村、櫻井(9/28 親睦活動委員会)

■ ニコニコ箱

- ・先月の地区大会、参加ありがとうございました
南出さん本日よろしく申し上げます(藤野)
- ・南出様、卓話よろしく申し上げます。又、地区大会GOLF入賞しました。ありがとうございます(寺田)
- ・南出さん、クラブフォーラム宜しく願い致します(泉谷)
- ・地区大会ゴルフで入賞致しました。171人中35位でした(大笑い)(前山)
- ・事務局の八谷さんにお世話になりました(平山)
- ・欠席のお詫び(高寺)
- ・欠席のお詫び(原(眞))

ニコニコ箱合計	13,000円
累計	370,000円

■ 地区大会 ゴルフコンペ



先週のプログラム 「クラブフォーラム」



南出 和成
ロータリー財団委員長

ロータリー財団とは
ロータリー財団の正式名称とは、国際ロータリーのロータリー財団です。ロータリーの奉仕の理想を信奉するだけでは国際ロータリーもロータリー財団も一体のもので、このロータリーの奉仕の理念に基づいて他の人々の役に立つ具体的活動をしているのがロータリー財団です。
ロータリー財団の標語:「世界でよいことをしよう」
ロータリー財団の使命:ロータリアンが、人々の健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすること。

ロータリー財団の父
ロータリー財団の父と呼ばれるのは6人目のRI会長、アーチ・クラフです。
1917年に、当時の会長アーチ・クラフが米国ジョージア州アトランタの国際大会で、「ロータリーが基金をつくり、全世界的な規模で慈善、教育、その他、社会奉仕の分野で、何かよいことをしようではないか」と提案しました。
数か月後に、この新しく誕生した基金は米国ミズーリ州カンザス・シティRCから米貨26ドル50セントの最初の寄付金で受け取りました。当初、これは、クラフ会長への記念品購入資金でした。しかしミズーリの人たちは、記念品の代わりに基金に寄付することを決定しました。次の寄付はほとんど米国カリフォルニア州サンフランシスコRCから寄せられました。その後、
1928年ミネソタ州ミネアポリス国際大会で、この基金はロータリー財団と改称され、国際ロータリー内の別個の存在になりました。
アーチ・クラフ
アーチ・クラフは、貧しい少年を経て米国オハイオ州クリーブランドで実業家として大をなした立志伝中の人物です。またアーチ・クラフは、フルート奏者(14年間クリーブランド交響楽団)の団員でした)やスポーツマンとしても活躍しました。アーチ・クラフは、国際ロータリーの新定款を起草する委員会の委員長として、地区を設け、地区ガバナー職をつくり、年次地区大会を確立するのに貢献しました。また、アーチ・クラフは、全ロータリークラブのために標準ロータリー・クラブ定款と細則を書き上げ、それは1915年に採択されました。ロータリーの初期において、アーチ・クラフの仕事は、ロータリーの発展に必要な結束を築くことでした。